

## 報 告

## 神奈川県藤沢市における チフチャフ *Phylloscopus collybita* の観察記録

加藤ゆき・岸本登巳子

Yuki Kato and Tomiko Kishimoto: The observation record of Common Chiffchaff  
*Phylloscopus collybita* from Fujisawa City, Kanagawa Prefecture

### 緒 言

チフチャフ *Phylloscopus collybita* は、スズメ目ムシクイ科 (Passeriformes: Phylloscopidae) に分類される鳥類で (日本鳥学会, 2012), ヨーロッパからロシア極東のコリマ川流域, カスピ海沿岸からモンゴル北西部にかけて繁殖し, 冬にはアフリカ, アラビア半島, インドへと渡る (日本鳥学会, 2012)。日本では 1996 年に富山県で初めて記録され (大西・湯浅, 1999), 数少ない旅鳥または冬鳥として北海道から沖縄県まで記録がある (日本鳥学会, 2012; 青木ほか, 2017)。今回, 神奈川県藤沢市で本種 1 羽を観察, 撮影をしたのでここに報告する。

### 材料と方法

2021 年 11 月 27 日に筆者の一人である岸本が藤沢市引地川の富士見橋下流で野鳥観察をしていたところ, 河原にある木立の中を素早く動き回るウグイス *Cettia diphone* に似た小鳥 1 羽を発見した。岸本は午後 12 時 18 分に本個体を発見してから午後 12 時 32 分に飛び去るまで観察を続け, 撮影を試みた。引地川は大和市に源を持ち藤沢市を南下する小河川で, 本個体を発見した河原にはススキやササ類を主とする高さ 1 m から 1.5 m 程度の草むらと, 樹高 10 m 程度のヤナギ類の木立が約 100 m にわたって広がっており, ウグイスやメジロ *Zosterops japonicus*, アカハラ *Turdus chrysolaus*, オオヨシキリ *Acrocephalus orientalis* などの野鳥を観察できる場所である。天気は晴天であった。種同定は撮影した写真によりおこなった。なお, 今回の観察場所の環境を考慮すると, 今後も本種の飛来の可能性が高いと考えられる。本種はカメラマンやバードウォッチャーに人気が高く, 飛来時には多くの観察者や撮影者が集中することも多く, 地域住民に迷惑がかかり対象個体にもストレスを与える恐れがあるため, 詳細な地名は明らかにしない。本報告に掲載した画

像は, すべて神奈川県立生命の星・地球博物館の鳥類アーカイブズ資料 (KPM-NQB) として登録した。和名及び学名は日本鳥学会 (2012), チフチャフの亜種の分類は Gill *et al.* (online) に従った。

### 結果と考察

本個体はササ類の茂みとヤナギ類の木立とを行き来し, 枝先を細かく動き回っていた。地面に降りることはなかった。周辺に他の鳥類を見られなかったことから単独でいたと思われる。鳴き声は聞かれなかった。

本個体は丸みを帯びた体型をしており, 体と比較して尾は長めであった (図 1A: KPM-NQB 1045A)。頭頂に丸みがあり, 頭部から背, 肩にかけての体上面はほぼ一様にオリーブ色味のある灰褐色であった (図 1B: KPM-NQB 1046A)。体下面は白っぽく, 側胸から脇にかけてはバフ色味を帯び, 下尾筒は白かった (図 1A, C: KPM-NQB 1047A)。右側尾羽の枚数は不明, 左側尾羽は 6 枚で (図 1A), 最外側尾羽を除いた外側尾羽 4 枚は中央尾羽とほぼ同じ長さで角尾に近い形状をしていた (図 1A)。尾羽上面は灰褐色で, 淡色の羽縁があった (図 1A)。嘴は真っすぐで細長くとがっており, 上嘴, 下嘴とも黒色, 会合部と下嘴の基部はわずかに黄色味を帯びて見えた (図 1A)。眉斑はバフ色で, 眼の前方でやや太く, 後方にいくにつれ細く不明瞭になった (図 1A, B)。耳羽は暗褐色であった (図 1A)。過眼線は暗褐色で眉斑より太く, 不明瞭であった (図 1A, B)。虹彩は暗色で, 眼の周囲には白色のアイリングがあり, 眼の前後で途切れていた (図 1A, B)。翼はオリーブ色味のある灰褐色で, 雨覆に翼帯は認められなかった (図 1A)。風切には淡色の羽縁があった (図 1A)。小翼羽は黒褐色であった (図 1B)。初列風切の突出は, 露出三列風切の 2 分の 1 程度であった (図 1A)。脚は細く黒色であった (図 1A, C)。

尾の形状や尾羽の枚数, 羽色から本個体をムシクイ属



図1. 神奈川県藤沢市で観察されたチフチャフ, 2021年11月27日, 岸本登巳子撮影. A: ヤナギ類の枝に止まったチフチャフ (KPM-NQB 1045A); B: A と同個体の上面 (KPM-NQB 1046A); C: A と同個体の左側面から腹部 (KPM-NQB 1047A).

*Phylloscopus* の一種と判断した。日本で記録のある本属 16 種（日本鳥学会, 2012; 大谷, 2013）のうち、本個体と上面及び下面の色彩が類似し、頭中央線と明瞭な翼帯がないのはキタヤナギムシクイ *P. trochilus*, チフチャフ, ムジセッカ *P. fuscatus*, キバラムシクイ *P. affinis*, カラフトムジセッカ *P. schwarzi* の 5 種が挙げられる (Svensson, 1992; 大西, 2011; 梅垣, 2016)。

キタヤナギムシクイは初列風切の突出が三列風切の露出部とほぼ同じ長さであり、下嘴の基部は黄褐色で前半に暗色斑がある。脚は黒褐色または暗肉褐色である (Svensson, 1992; Svensson *et al.*, 2009; 大西, 2011)。ムジセッカは初列風切の突出は三列風切露出部の 3 分の 1 以下である。脇から下尾筒は淡褐色で、下嘴は橙黄色で前半に暗色斑がある (Svensson, 1992; 大西, 2011)。キバラムシクイは眉斑は黄色で太く明瞭、喉から下尾筒まで黄色、下嘴は橙黄色で前半に暗色斑、脚は橙褐色または肉褐色である (大西, 2011)。カラフトムジセッカは下尾筒の黄色みが強く、眉斑はやや太くて目立つ。嘴は太く短く、先端には丸みがあり、下嘴は橙黄色で前半に暗色斑が見られる。脚は淡い肉褐色である (Svensson, 1992; Svensson *et al.*, 2009; 大西, 2011)。

本個体は、上面に緑色味を帯びず下面に黄色味が見られないこと (図 1B), 眉斑がバフ色であること (図 1A), 初列風切の突出が露出三列風切の 2 分の 1 程度であること、嘴の先端が細くとがっており脚と嘴が黒色であること (図 1A, C) からチフチャフと同定した (Svensson, 1992; 大西, 2011)。

チフチャフは 6 亜種に分けられている (Gill *et al.*, online)。頭上と上背に緑色味がないこと (図 1A), 下面及び頬, 耳羽に黄色味が見られないこと (図 1A, B), 眉斑がバフ色であること (図 1A) から、本個体を亜種チフチャフ *P. c. tristis* と同定した (Svensson, 1992; Clement *et al.*, 1998; Svensson *et al.* 2009)。本亜種は風切羽の先端部の摩耗及び風切羽や中央尾羽の換羽状況、大雨覆の羽縁の色彩が年齢により異なるが、その差異はわずかとされている (Svensson, 1992)。写真からはその差異が確認できず、年齢は判断できなかった。本種の雌雄は形態的に酷似するため (Svensson, 1992), 性別は不明である。

チフチャフの国内の記録は 10 月から 11 月までの秋の記録が比較的多い (日本産鳥類記録委員会, 2005)。一方で千葉県や東京都, 静岡県, 岡山県, 福岡県では冬季の記録も見られる (梅垣・大西, 2012)。そのため、同地での越冬の可能性を考慮し、2021 年 12 月 4 日から 2022 年 5 月 28 日までの間、岸本が 21 回にわたり上流の同様の環境が広がる場所も含めて探査したが、発見することはできなかった。以上のことから、同地には渡り時に一時的に立ち寄った可能性が高いと考える。

なお、今回の報告以前に神奈川県では本種の渡来記録は見られず (日本野鳥の会神奈川支部, 2020), この事例は県内での初記録となる。

## 謝 辞

本個体の種同定にあたり、公益財団法人山階鳥類研究所広報ディレクターの平岡 考氏にご協力いただき、同研究所研究員の齋藤武馬氏にご教示いただいた。神奈川県立生命の星・地球博物館学芸員の石田祐子氏には河原の植物の同定にご協力いただいた。本稿をまとめるにあたり、査読者並びに編集委員会のみなさまには丁寧なご指導及び貴重なご助言をいただいた。ここに記して深謝する。

## 引用文献

- 青木大輔・北沢宗大・神戸宇孝, 2017. 北海道天売島・焼尻島におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の国内最北観察記録. 日本鳥学会誌, **66**: 181-186.
- Clement, P., A. J. Helbig & B. Small, 1998. Taxonomy and identification of chiffchaffs in the western Palearctic. *British Birds*, **91**: 361-376.
- Gill, F., D. Donsker & P. Rasmussen (eds), online. IOC world bird list, ver.12.2. <https://www.worldbirdnames.org/new/ioc-lists/master-list-2/> (accessed on 2022-October-22).
- 日本鳥学会, 2012. 日本鳥類目録, 改訂第 7 版, xx+438 pp. 日本鳥学会, 三田.
- 日本産鳥類記録委員会, 2005. 日本産鳥類記録リスト (6). 日本鳥学会誌, **54**: 110-122.
- 日本野鳥の会神奈川支部編, 2020. 神奈川の鳥 2011-15: 神奈川県鳥類目録 VII. 685 pp. 日本野鳥の会神奈川支部, 横浜.
- 大西敏一, 2011. ムシクイマスターへの道. *Birder*, **25**(3): 24-39.
- 大西敏一・湯浅純孝, 1999. 日本におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の初記録. 日本鳥学会誌, **47**: 73-76.
- 大谷 力, 2013. 山形県飛島におけるウスリームシクイ *Phylloscopus tenelliprs* の記録. 日本鳥学会誌, **62**: 171-174.
- Svensson, L., 1992. Identification guide to European passerines, fourth, revised and enlarged edition. 村田 健訳, 2011, ヨーロッパ産スズメ目の識別ガイド, 343 pp. 文一総合出版, 東京.
- Svensson, L., P. J. Grant, K. Mullarney & D. Zetterström, 2009. Collins bird guide (2nd edition). 448 pp. Harper Collins, London.
- 梅垣佑介, 2016. メボソムシクイ上種. *Birder*, **30**(10): 16-17.
- 梅垣佑介・大西敏一, 2012. 沖縄県と那国島におけるチフチャフ *Phylloscopus collybita tristis* の南西諸島初記録と国内における冬期の記録. 日本鳥学会誌, **61**: 151-155.

加藤ゆき: 神奈川県立生命の星・地球博物館; 岸本登巳子: 日本自然科学写真協会

(受領 2022 年 10 月 30 日; 受理 2023 年 3 月 5 日)